釧路出身・ソプラノ歌手の中嶋さん

「音楽表現の感受性磨いた」
8年ぶり地元公演

8年ぶりの故郷での公演を前に、歌への思いを語る中嶋さん

釧路市出身でオーストリア・ウィーン在住のソプラノ歌手、中嶋彰子さん(42)が21日、釧路市民文化会館で開かれる「くしろニューイヤーコンサート」で、8年ぶりに故郷の舞台に立つ。中嶋さんに、音楽家としての原点をはぐくんだ釧路への思いを聞いた。(聞き手・久保田昌子)

――今回の日程は。

「ウィーンから、19日に釧路に来ました。2月6日まで東京など国内7公演が続きます。その後いったんウィーンに戻り、3月には滋賀県で公演があります。5年前にフリーになってからは1年の半分ほどをウィーンで過ごし、残りは世界中を飛び回っています」

――10歳まで暮らした釧路は自身の音楽にどんな影響を与えていますか。

「技術者として太平洋炭礦で働いていた父は音楽が好きで、家でいつも楽器を弾いていました。その影響で私も物心ついた時から歌うのが大好き。それと同じくらい外で遊ぶことも好きで、自然に抱かれ、伸び伸びと育ったことが、音楽を表現する上で重要な感受性を磨いたと思います」

――歌手になるまでの道のりは。

「父の仕事で15歳の時、オーストラリアに渡りました。声楽家を目指しましたが音大の受験に失敗。そこで奮起し、全豪コンクールで優勝して欧州デビューへ。振り返れば、あのときの挫折が自分を強くしてくれました」

――釧路の子供たちに伝えたいことは。

「20日に母校の城山小で授業しましたが、『夢がない』という子も少なくありませんでした。でも子供たちには、面白い、楽しい、美しいと感じる心を大切にしてほしいと思います。私がそうだったように、あふれるような好奇心から夢は生まれてくるのですから」

◇

くしろニューイヤーコンサートは21日午後6時30分から、入場料5000円。問い合わせは実行委事務局☎0154・46・8000へ。